

ニッケイ俳壇

(869)

富重久子 選
サンバウロ 鈴木 文子○大西日による熱気の巻を開け
天ぶらに味噌漬けにて茗荷の子○流燈やふと甦る父母の顔
日本では簾を下ろしたり、日除けを廻らせ

たり又、客を待つて打ち水をしたりする。

この句は大西日を受けて熱氣の簾を

部屋の窓を、ようやく日の落ちたのを見計

らって開け放つてある一句である。「こ

の句は大西日が心洗はる一夜かな

○夏の西日は日中よりも我慢出来ない位の

厳しさである。そんな西日から守るために

日本では簾を下ろしたり、日除けを廻らせ

たり又、客を待つて打ち水をしたりする。

この句は大西日を受けて熱氣の簾を

部屋の窓を、ようやく日の落ちたのを見計

らって開け放つてある一句である。「こ

の句は大西日が心洗はる一夜かな

○もう大分前になるが、流燈会に参加した

ことがある。大きな河の上流からゆづくり

と流れてくる小さな揺らぐ灯火を見ている

て鑑賞させて頂く。

○蚊柱の立つて旅人驚かせ

西日落つセルトン大地風生まれ

○蚊柱の立つて旅人驚かせ

かずま忌俳句大会

* 第十回

蜂鳥誌友会

【当日欠席者による投句】

サンバウロ

井上 人栄

那須 千草

アーチャー・ド・スール

セザリオ・ランジェ

羽佐 梨子

鈴木 美穂

高橋 紫葉

東 岩

比呂 伸

金子 一路

堀 百合子

笛谷 蘭子

高橋 静林

中馬 淳一

佐藤けい子

鈴木 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

羽佐 梨子

佐藤けい子

高橋 紫葉

富樫 伸

高橋 静林

核兵器廃絶の想い日伯で共有

ラーモス平和資料館に分灯

未亡人「最後まで感動づめ」

サンタカタリーナ州ラーモス移住地の平和資料館で12日午後、近隣の小学生や地域住民ら約150人が参加した。日伯120周年を記念して、歌手の井上祐見と息子

笠戸丸ともやす君が「分灯の使者」として長崎市から運んだ。きっかけとなつた長崎平和の鐘

公園を建設した故・小川和己さんの妻満里子さんは最初から最後まで感動づめ。天国の和己にこ

れを見せたかった」としみじみ語り、静かに手を合わせた。

「この灯には、絶対にいう誓いが込められていて、皆さんもこの誓いを広

げさせないと。長崎市民と一緒に、の皆さんもこの誓いを広

めください」。聖市から出席した長崎県人会の大河正夫副会長は、長崎市田上富久市長からの

感謝は二度と原爆を使

わせないという思いを代読した。

州知事代理のロッケ・スタンゲーリン地域開発長官は、「二度と原爆を使

わせない」という思いをしつかりと共有したい。

先日発表された日本ブラジル牛丼は、私が

長官は「二度と原爆を使

わせない」という思いをしつかりと共有したい。

